

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の IF 記載要領 2008 に準拠して作成

ブドウ糖加アセテート維持液

アセトキープ[®] 3 G 注

ACETOKEEP 3G INJ.

剤 形	注射剤
製 剤 の 規 制 区 分	処方箋医薬品（注意－医師等の処方箋により使用すること）
規 格 ・ 含 量	規格：1 瓶 500mL 含量：IV. 製剤に関する項目の「製剤の組成」を参照
一 般 名	和名：配合剤のためなし 洋名：配合剤のためなし
製造販売承認年月日 薬 価 基 準 収 載 ・ 発 売 年 月 日	製造販売承認年月日：2006 年 2 月 20 日 薬価基準収載年月日：2006 年 7 月 7 日 発 売 年 月 日：2006 年 7 月 10 日
開発・製造販売（輸入） ・ 提携・販売会社名	販 売：ニプロ株式会社 製造販売：共和クリティケア株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問 い 合 わ せ 窓 口	ニプロ株式会社 医薬品情報室 TEL：0120-226-898 FAX：06-6375-0177 医療関係者向けホームページ http://www.nipro.co.jp/

本 I F は 2015 年 4 月改訂の添付文書の記載に基づき作成した。
最新の添付文書情報は、医薬品医療機器総合機構ホームページ
<http://www.pmda.go.jp/> にてご確認ください。

IF 利用の手引きの概要 — 日本病院薬剤師会 —

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IF と略す）の位置付け並びに IF 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において IF 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過した現在、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において新たな IF 記載要領が策定された。

2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IF の様式]

- ① 規格は A4 版、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ② IF 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③ 表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

[IF の作成]

- ① IF は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ② IF に記載する項目及び配列は日病薬が策定した IF 記載要領に準拠する。
- ③ 添付文書の内容を補完するとの IF の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④ 製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤ 「医薬品インタビューフォーム記載要領 2008」（以下、「IF 記載要領 2008」と略す）により作成された IF は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IF の発行]

- ① 「IF 記載要領 2008」は、平成 21 年 4 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ② 上記以外の医薬品については、「IF 記載要領 2008」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③ 使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には IF が改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF 記載要領 2008」においては、従来の主に MR による紙媒体での提供に替え、PDF ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則で、医療機関での IT 環境によっては必要に応じて MR に印刷物での提供を依頼してもよいこととした。

電子媒体の IF については、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IF の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や IF 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IF の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IF が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IF の使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IF を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IF は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IF があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2008 年 9 月)

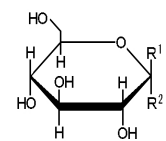
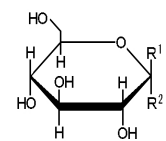
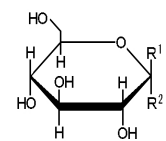
目 次

I.	概要に関する項目	1
II.	名称に関する項目	2
III.	有効成分に関する項目	3
IV.	製剤に関する項目	4
V.	治療に関する項目	7
VI.	薬効薬理に関する項目	8
VII.	薬物動態に関する項目	9
VIII.	安全性（使用上の注意等）に関する項目	11
IX.	非臨床試験に関する項目	14
X.	管理的事項に関する項目	15
X I.	文献	17
X II.	参考資料	17
X III.	備考	17

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯	アセトキープ 3G 注は、共和クリティケア株式会社が後発医薬品として開発を企画し、規格及び試験方法を設定した。加速試験を行い、2006 年 2 月に承認を取得し、200mL 及び 500mL 製剤を 2006 年 7 月に上市した。 ニプロ株式会社では、500mL 製剤を取扱販売している。
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	本剤は塩基源として、肝臓及び全身の筋肉で代謝され、代謝速度が速い酢酸ナトリウムを配合した 3 号維持液である。 電解質としてナトリウム、カリウムに加えてマグネシウム、リンを配合し、更に糖質源として最も生理的で、エネルギー効率の良いブドウ糖を 5%配合している。

Ⅱ. 名称に関する項目

1. 販売名	アセトキープ 3G 注																																			
(1) 和名																																				
(2) 洋名																																				
(3) 名称の由来																																				
2. 一般名																																				
(1) 和名（命名法）	配合剤のためなし																																			
(2) 洋名（命名法）	配合剤のためなし																																			
(3) ステム	不明																																			
3. 構造式又は示性式	表Ⅱ-1 構造式又は示性式、分子式及び分子量、化学名（命名法）、CAS 登録番号																																			
4. 分子式及び分子量	<table><tr><th>一般名</th><th>構造式又は示性式</th><th>分子式 分子量</th><th>化学名</th><th>CAS 登録 番号</th></tr><tr><td>塩化ナトリウム</td><td>NaCl</td><td>NaCl 58.44</td><td>Sodium Chloride (JAN)</td><td>7647-14-5</td></tr><tr><td>塩化カリウム</td><td>KCl</td><td>KCl 74.55</td><td>Potassium Chloride (JAN)</td><td>7447-40-7</td></tr><tr><td>塩化マグネシウム水和物</td><td>MgCl₂・6H₂O</td><td>MgCl₂・6H₂O 203.30</td><td>Magnesium Chloride Hydrate (JAN)</td><td>7791-18-6</td></tr><tr><td>リン酸二水素カリウム</td><td>KH₂PO₄</td><td>KH₂PO₄ 136.09</td><td>Potassium dihydrogene-phosphate (IUPAC)</td><td>7778-77-0</td></tr><tr><td>酢酸ナトリウム水和物</td><td>CH₃CO₂Na・3H₂O</td><td>C₂H₃NaO₂・3H₂O 136.08</td><td>Monosodium acetate trihydrate (IUPAC)</td><td>6131-90-4</td></tr><tr><td>ブドウ糖</td><td> α-D-グルコピラノース：R¹=H, R²=OH β-D-グルコピラノース：R¹=OH, R²=H</td><td>C₆H₁₂O₆ 180.16</td><td>D-Glucopyranose (IUPAC)</td><td>50-99-7</td></tr></table>	一般名	構造式又は示性式	分子式 分子量	化学名	CAS 登録 番号	塩化ナトリウム	NaCl	NaCl 58.44	Sodium Chloride (JAN)	7647-14-5	塩化カリウム	KCl	KCl 74.55	Potassium Chloride (JAN)	7447-40-7	塩化マグネシウム水和物	MgCl ₂ ・6H ₂ O	MgCl ₂ ・6H ₂ O 203.30	Magnesium Chloride Hydrate (JAN)	7791-18-6	リン酸二水素カリウム	KH ₂ PO ₄	KH ₂ PO ₄ 136.09	Potassium dihydrogene-phosphate (IUPAC)	7778-77-0	酢酸ナトリウム水和物	CH ₃ CO ₂ Na・3H ₂ O	C ₂ H ₃ NaO ₂ ・3H ₂ O 136.08	Monosodium acetate trihydrate (IUPAC)	6131-90-4	ブドウ糖	 α-D-グルコピラノース：R¹=H, R²=OH β-D-グルコピラノース：R¹=OH, R²=H	C ₆ H ₁₂ O ₆ 180.16	D-Glucopyranose (IUPAC)	50-99-7
一般名		構造式又は示性式	分子式 分子量	化学名	CAS 登録 番号																															
塩化ナトリウム		NaCl	NaCl 58.44	Sodium Chloride (JAN)	7647-14-5																															
塩化カリウム		KCl	KCl 74.55	Potassium Chloride (JAN)	7447-40-7																															
塩化マグネシウム水和物		MgCl ₂ ・6H ₂ O	MgCl ₂ ・6H ₂ O 203.30	Magnesium Chloride Hydrate (JAN)	7791-18-6																															
リン酸二水素カリウム		KH ₂ PO ₄	KH ₂ PO ₄ 136.09	Potassium dihydrogene-phosphate (IUPAC)	7778-77-0																															
酢酸ナトリウム水和物		CH ₃ CO ₂ Na・3H ₂ O	C ₂ H ₃ NaO ₂ ・3H ₂ O 136.08	Monosodium acetate trihydrate (IUPAC)	6131-90-4																															
ブドウ糖	 α-D-グルコピラノース：R¹=H, R²=OH β-D-グルコピラノース：R¹=OH, R²=H	C ₆ H ₁₂ O ₆ 180.16	D-Glucopyranose (IUPAC)	50-99-7																																
5. 化学名（命名法）																																				
6. 慣用名、別名、略名、記号番号	なし																																			
7. CAS 登録番号	上記「表Ⅱ-1 参照」																																			

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質	本品は配合剤であり、各配合成分について示す。 ¹⁾														
(1) 外観・性状															
(2) 溶解性															
1) 各種溶媒における溶解性															
2) 各種 pH 溶媒に対する溶解度															
(3) 吸湿性															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>成分名</th><th>外観・性状、溶解性、吸湿性</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>塩化ナトリウム</td><td>無色又は白色の結晶又は結晶性の粉末である。水に溶けやすく、エタノール（99.5）にほとんど溶けない。</td></tr> <tr> <td>塩化カリウム</td><td>無色又は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は塩辛い。水に溶けやすく、エタノール（95）又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。</td></tr> <tr> <td>塩化マグネシウム水和物</td><td>無色の結晶又は塊で、においはない。水に極めて溶けやすく、エタノールに溶けやすい。潮解性である。</td></tr> <tr> <td>リン酸二水素カリウム</td><td>白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は辛い。水に溶けやすく、氷酢酸に極めて溶けにくく、エタノール又はエーテルほとんど溶けない。</td></tr> <tr> <td>酢酸ナトリウム水和物</td><td>無色の結晶又は白色の結晶性の粉末で、においはないか、又はわずかに酢酸臭があり、清涼な塩味があり、わずかに苦い。水に極めて溶けやすく、酢酸（100）に溶けやすく、エタノール（95）にやや溶けやすく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。温乾燥空気中で風解する。</td></tr> <tr> <td>ブドウ糖</td><td>白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は甘い。水に溶けやすく、エタノール（95）に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。</td></tr> </tbody> </table>	成分名	外観・性状、溶解性、吸湿性	塩化ナトリウム	無色又は白色の結晶又は結晶性の粉末である。水に溶けやすく、エタノール（99.5）にほとんど溶けない。	塩化カリウム	無色又は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は塩辛い。水に溶けやすく、エタノール（95）又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。	塩化マグネシウム水和物	無色の結晶又は塊で、においはない。水に極めて溶けやすく、エタノールに溶けやすい。潮解性である。	リン酸二水素カリウム	白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は辛い。水に溶けやすく、氷酢酸に極めて溶けにくく、エタノール又はエーテルほとんど溶けない。	酢酸ナトリウム水和物	無色の結晶又は白色の結晶性の粉末で、においはないか、又はわずかに酢酸臭があり、清涼な塩味があり、わずかに苦い。水に極めて溶けやすく、酢酸（100）に溶けやすく、エタノール（95）にやや溶けやすく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。温乾燥空気中で風解する。	ブドウ糖	白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は甘い。水に溶けやすく、エタノール（95）に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。
成分名	外観・性状、溶解性、吸湿性														
塩化ナトリウム	無色又は白色の結晶又は結晶性の粉末である。水に溶けやすく、エタノール（99.5）にほとんど溶けない。														
塩化カリウム	無色又は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は塩辛い。水に溶けやすく、エタノール（95）又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。														
塩化マグネシウム水和物	無色の結晶又は塊で、においはない。水に極めて溶けやすく、エタノールに溶けやすい。潮解性である。														
リン酸二水素カリウム	白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は辛い。水に溶けやすく、氷酢酸に極めて溶けにくく、エタノール又はエーテルほとんど溶けない。														
酢酸ナトリウム水和物	無色の結晶又は白色の結晶性の粉末で、においはないか、又はわずかに酢酸臭があり、清涼な塩味があり、わずかに苦い。水に極めて溶けやすく、酢酸（100）に溶けやすく、エタノール（95）にやや溶けやすく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。温乾燥空気中で風解する。														
ブドウ糖	白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は甘い。水に溶けやすく、エタノール（95）に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。														
(4) 融点（分解点）、沸点、凝固点	該当しない														
(5) 酸塩基解離定数	該当しない														
(6) 分配係数	該当しない														
(7) その他の主な示性値	配合剤のため省略														
2. 有効成分の各種条件下における安定性	配合剤のため省略														
3. 有効成分の確認試験法	日局「塩化ナトリウム」「塩化カリウム」「ブドウ糖」「酢酸ナトリウム水和物」 局外規「塩化マグネシウム水和物」「リン酸二水素カリウム」の確認試験法による。														
4. 有効成分の定量法	日局「塩化ナトリウム」「塩化カリウム」「ブドウ糖」「酢酸ナトリウム水和物」 局外規「塩化マグネシウム水和物」「リン酸二水素カリウム」の定量法による。														

Ⅳ. 製剤に関する項目

1. 剤形 (1) 剤形の区別、規格及び性状 (2) 溶液及び溶解時の pH、浸透圧比、粘度、比重、安定な pH 域等 (3) 注射剤の容器中の特殊な気体の有無及び種類	販売名	アセトキープ 3G 注					
	有効成分・含有量						500mL
		塩化ナトリウム NaCl					730.6mg
		塩化カリウム KCl					261.0mg
		塩化マグネシウム水和物 MgCl ₂ ・6H ₂ O					254.2mg
		リン酸二水素カリウム KH ₂ PO ₄					680.5mg
		酢酸ナトリウム水和物 C ₂ H ₃ NaO ₂ ・3H ₂ O					1360.8mg
		ブドウ糖 C ₆ H ₁₂ O ₆					25.0g
	添加物	pH 調整剤					適 量
	性状	無色～微黄色澄明の水性注射液					
	剤形	注射剤 500mL 1 瓶 (プラスチック製ボトル入)					
	pH	4.3～6.3					
	浸透圧比(生理食塩液に対する比)	1.3～1.7					
	比重 d ₂₀ ²⁰	1.022					
	注射剤の容器中の特殊な気体の有無及び種類	該当しない					
(3) 電解質の濃度	mEq/L						
	Na ⁺	K ⁺	Mg ²⁺	Cl ⁻	H ₂ PO ₄ ⁻	Acetate ⁻	
	45	17	5	37	10	20	
	(4) 添付溶解液の組成及び容量						
	該当しない						
(5) その他	特になし						
3. 注射剤の調製法	1. カルシウムイオンと沈殿を生じるので、カルシウム塩を含む製剤と配合しないこと。 2. pH 依存性の配合変化を起こす薬剤（例えばチアミールナトリウム）との配合により、白濁又は結晶析出を生じることがあるので、配合しないこと。						
4. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	該当しない						

5. 製剤の各種条件下における安定性

長期保存試験（室温、36 ヶ月）の結果、アセトキープ 3G 注は通常の市場流通下において 3 年間安定であることが確認された。²⁾

1. 加速試験（40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月）

試験項目		規格	試験開始時	6 ヶ月
性状		無色～微黄色澄明な液	無色澄明	無色澄明
		500mL	500mL	500mL
浸透圧比		1.3～1.7	1.5	1.5
pH		4.3～6.3	5.3	5.3
定 量	総塩素(w/v %)	0.118～0.144	0.141	0.141
	塩化ナトリウム(%)	93～107	99.9	100.8
	塩化カリウム(%)	93～107	100.9	101.0
	塩化マグネシウム(%)	93～107	100.3	99.5
	リン酸二水素カリウム(%)	93～107	99.4	99.9
	酢酸ナトリウム(%)	93～107	99.6	99.3
	ブドウ糖(%)	94～106	98.9	98.0

2. 長期保存試験（室温、36 ヶ月）

試験項目		規格	試験開始時	36 ヶ月
性状		無色～微黄澄明な液	無色透明	無色透明
		500mL	500mL	500mL
浸透圧比		1.3～1.7	1.49	1.48
pH		4.3～6.3	5.34	5.39
純度試験（重金属）		0.3ppm 以下	適合	—
純度試験（ヒ素）		0.1ppm 以下	適合	—
純度試験（5-HMF）		0.50 以下	0.026	0.059
実容量試験 平均実容量		545mL 以下	519.6mL	516.5mL
不溶性異物		局方に準ずる	適合（0/10）	適合（0/10）
不溶性微粒子	10 μ m 以上： 25 個/mL 以下		0	0
	25 μ m 以上： 3 個/mL 以下		0	0.1
エンドトキシン		0.25EU/mL 未満	適合	—
無菌		局方に準ずる	適合	—
定 量	総塩素(w/v %)	0.132～0.152	0.140	0.142
	塩化ナトリウム(%)	93～107	100.9	100.2
	塩化カリウム(%)	93～107	101.7	101.3
	塩化マグネシウム(%)	93～107	100.2	101.6
	リン酸二水素カリウム(%)	93～107	99.0	100.3
	酢酸ナトリウム(%)	93～107	97.5	99.7
	ブドウ糖(%)	94～106	97.6	97.7

6. 溶解後の安定性

該当しない

7. 他剤との配合変化 (物理化学的变化)	1. カルシウムイオンと沈殿を生じるので、カルシウム塩を含む製剤と配合しないこと。 2. pH 依存性の配合変化を起こす薬剤（例えばチアミールナトリウム）との配合により、白濁又は結晶析出を生じることがあるので、配合しないこと。 pH 変動スケール <table><tr><td>pH</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr><tr><td></td><td colspan="4">←10mL</td><td colspan="4">1.7mL→</td><td colspan="6">白 濁</td></tr><tr><td></td><td colspan="4">1.58</td><td colspan="4">5.31 (試料 pH)</td><td colspan="6">9.92</td></tr></table>	pH	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14		←10mL				1.7mL→				白 濁							1.58				5.31 (試料 pH)				9.92					
pH	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14																																
	←10mL				1.7mL→				白 濁																																					
	1.58				5.31 (試料 pH)				9.92																																					
8. 生物学的試験法	該当しない																																													
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	1. 本品 2～3 滴を沸騰フェーリング試液 5mL に加えるとき、赤色の沈殿を生じる（ブドウ糖）。 2. 本品はナトリウム塩の定性反応を呈する。 3. 本品は塩化物の定性反応（1）を呈する。 4. 本品はカリウム塩の定性反応（1）、（3）及び（4）を呈する。 5. 本品 2mL に p-ニトロベンゼンアゾ-α-ナフトールの水酸化ナトリウム試液溶液（1→10000）1mL を加えるとき、液は青色を呈する。 6. 本品はリン酸塩の定性反応（2）及び（3）を呈する。 7. 本品は酢酸塩の定性反応（1）及び（2）を呈する。																																													
10. 製剤中の有効成分の定量法	1. 総塩素、塩化ナトリウム、塩化カリウム、塩化マグネシウム水和物、リン酸ニ水素カリウム、酢酸ナトリウム水和物 ：液体クロマトグラフィー 2. ブドウ糖 ：旋光度測定法																																													
11. 力価	該当しない																																													
12. 混入する可能性のある夾雑物	特になし																																													
13. 治療上注意が必要な容器に関する情報	プラスチック（ポリプロピレン）製ボトル																																													
14. その他	本剤の容量、及び本容器の全満量・予備容量 <table><tr><td>表示量</td><td>容量（実測値）</td><td>全満量</td><td>混注可能量</td><td>予備容量</td></tr><tr><td>500mL</td><td>約 520mL</td><td>759.7mL</td><td>44.4mL</td><td>約 200mL</td></tr></table> 混注可能量：通気針を使用しない場合 予 備 容 量：通気針を使用する場合	表示量	容量（実測値）	全満量	混注可能量	予備容量	500mL	約 520mL	759.7mL	44.4mL	約 200mL																																			
表示量	容量（実測値）	全満量	混注可能量	予備容量																																										
500mL	約 520mL	759.7mL	44.4mL	約 200mL																																										

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果 2. 用法及び用量 3. 臨床成績 (1) 臨床データパッケージ (2) 臨床効果 (3) 臨床薬理試験：忍容性試験 (4) 探索的試験：用量反応探索試験 (5) 検証的試験 1) 無作為化並行用量反応試験 2) 比較試験 3) 安全性試験 4) 患者・病態別試験 (6) 治療的使用 1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験） 2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要	経口摂取が不能又は不十分な場合の水分・電解質の補給・維持、エネルギーの補給 通常、成人には、1回 500～1000mL を、小児には、1回 200～500mL を点滴静注する。投与速度は、成人・小児ともにブドウ糖として1時間あたり 0.5g/kg 体重以下とする。 なお、年齢、症状、体重などに応じて適宜増減する。 〈用法及び用量に関連する使用上の注意〉 1. 小児における一般的な維持輸液量の計算方法は下表のとおりである。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">体重</th><th style="text-align: center;">一日量</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">10kg まで</td><td style="text-align: center;">100mL/kg</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">11～20kg</td><td style="text-align: center;">1000mL+50mL/kg×（体重－10kg）</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">20kg 以上</td><td style="text-align: center;">1500mL+20mL/kg×（体重－20kg）</td></tr> </tbody> </table> ただし、個々の患児に対する輸液量は年齢、症状、水分喪失量や病態なども考慮したうえで決定する。 2. 本剤は1000mL当たりエネルギー量として200kcal 含んでいるが、本剤のみでは1日に必要とされるエネルギー量を十分に満たすことはできないので、手術等による経口摂取不能な患者に対する本剤のみでの使用は短期間とすること。 3. 投与速度がブドウ糖として1時間あたり 0.5g/kg を超えた場合、ブドウ糖は生体内で利用されず、一部は尿中に排泄される場合があることが知られている。 該当資料なし	体重	一日量	10kg まで	100mL/kg	11～20kg	1000mL+50mL/kg×（体重－10kg）	20kg 以上	1500mL+20mL/kg×（体重－20kg）
体重	一日量								
10kg まで	100mL/kg								
11～20kg	1000mL+50mL/kg×（体重－10kg）								
20kg 以上	1500mL+20mL/kg×（体重－20kg）								

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群	糖加電解質維持液
2. 薬理作用 (1) 作用部位・作用機序 (2) 薬効を裏付ける試験成績 (3) 作用発現時間・持続時間	該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法 (1) 治療上有効な血中濃度 (2) 最高血中濃度到達時間 (3) 臨床試験で確認された血中濃度 (4) 中毒域 (5) 食事・併用薬の影響 (6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因	該当資料なし
2. 薬物速度論的パラメータ (1) コンパートメントモデル (2) 吸収速度定数 (3) バイオアベイラビリティ (4) 消失速度定数 (5) クリアランス (6) 分布容積 (7) 血漿蛋白結合率	該当資料なし
3. 吸収	該当しない（点滴静脈内投与）
4. 分布 (1) 血液－脳関門通過性 (2) 血液－胎盤関門通過性 (3) 乳汁への移行性 (4) 髄液への移行性 (5) その他の組織への移行性	該当資料なし
5. 代謝 (1) 代謝部位及び代謝経路 (2) 代謝に関与する酵素（CYP450 等）の分子種 (3) 初回通過効果の有無及びその割合 (4) 代謝物の活性の有無及び比率 (5) 活性代謝物の速度論的パラメータ	該当資料なし

6. 排泄 (1) 排泄部位及び経路 (2) 排泄率 (3) 排泄速度	該当資料なし
7. 透析等による除去率	該当資料なし

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由	該当しない								
2. 禁忌内容とその理由 (原則禁忌を含む)	【禁忌（次の患者には投与しないこと）】 - 高カリウム血症、乏尿、アジソン病、重症熱傷、高窒素血症の患者〔本剤はカリウムを含有するので血清カリウム値を上昇させることがある。〕 - 高リン血症、低カルシウム血症、副甲状腺機能低下症の患者〔本剤はリンを含有するので血清リン値を上昇させることがある。〕 - 高マグネシウム血症、甲状腺機能低下症の患者〔本剤はマグネシウムを含有するので血清マグネシウム値を上昇させることがある。〕								
3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	該当しない								
4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	〈用法及び用量に関連する使用上の注意〉 - 小児における一般的な維持輸液量の計算方法は下表のとおりである。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>体重</th><th>一日量</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10kg まで</td><td>100mL/kg</td></tr> <tr> <td>11～20kg</td><td>1000mL+50mL/kg×（体重－10kg）</td></tr> <tr> <td>20kg 以上</td><td>1500mL+20mL/kg×（体重－20kg）</td></tr> </tbody> </table> ただし、個々の患児に対する輸液量は年齢、症状、水分喪失量や病態なども考慮したうえで決定する。 - 本剤は1000mL当たりエネルギー量として200kcal 含んでいるが、本剤のみでは1日に必要とされるエネルギー量を十分に満たすことはできないので、手術等による経口摂取不能な患者に対する本剤のみでの使用は短期間とすること。 - 投与速度がブドウ糖として1時間あたり0.5g/kgを超えた場合、ブドウ糖は生体内で利用されず、一部は尿中に排泄される場合があることが知られている。	体重	一日量	10kg まで	100mL/kg	11～20kg	1000mL+50mL/kg×（体重－10kg）	20kg 以上	1500mL+20mL/kg×（体重－20kg）
体重	一日量								
10kg まで	100mL/kg								
11～20kg	1000mL+50mL/kg×（体重－10kg）								
20kg 以上	1500mL+20mL/kg×（体重－20kg）								
5. 慎重投与内容とその理由	慎重投与（次の患者には慎重に投与すること） - 高カリウム血症を伴わない腎不全のある患者〔酸塩基平衡の異常、電解質異常が起こることがある。〕 - 心不全のある患者〔体液量の過剰により心負荷を起こすことがある。〕 - 閉塞性尿路疾患により尿量が減少している患者〔体液量が過剰となることがある。〕 - 糖尿病の患者〔血糖値の上昇、水・電解質異常を起こす、又は増悪するおそれがある。〕								
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	該当しない								
7. 相互作用 (1) 併用禁忌とその理由 (2) 併用注意とその理由	該当しない								

8. 副作用 (1) 副作用の概要 (2) 重大な副作用と初期症状 (3) その他の副作用 (4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧 (5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度 (6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法	本剤は副作用の内容及び頻度が明確となる調査を実施していないため、副作用については同一成分薬を参考に記載した。 該当しない 副作用が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。 大量・急速投与：脳浮腫、肺水腫、末梢の浮腫、水中毒、高カリウム血症(頻度不明)があらわれることがある。 該当しない 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。 該当しない
9. 高齢者への投与	一般に高齢者では生理機能が低下しているので、投与速度を緩徐にし、減量するなど注意すること。
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	該当資料なし
11. 小児等への投与	該当資料なし
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	該当資料なし
13. 過量投与	該当資料なし
14. 適用上の注意	1. 調製時： (1)カルシウムイオンと沈殿を生じるので、カルシウム塩を含む製剤と配合しないこと。 (2)pH 依存性の配合変化を起こす薬剤(例えばチアミラールナトリウム)との配合により、白濁又は結晶析出を生じることがあるので、配合しないこと。 2. 投与前： (1)投与に際しては、感染に対する配慮をすること(患者の皮膚や器具消毒)。 (2)寒冷期には体温程度に温めて使用すること。 (3)開封後直ちに使用し、残液は決して使用しないこと。 3. 投与时：本剤を投与する場合は患者の尿量が1日 500mL 又は1時間当たり 20mL 以上あることが望ましい。

15. その他の注意	該当資料なし
16. その他	該当資料なし

Ⅸ. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験	
(1) 薬効薬理試験（「Ⅵ. 薬効薬理に関する項目」参照）	
(2) 副次的薬理試験	該当資料なし
(3) 安全性薬理試験	該当資料なし
(4) その他の薬理試験	該当資料なし
2. 毒性試験	該当資料なし
(1) 単回投与毒性試験	
(2) 反復投与毒性試験	
(3) 生殖発生毒性試験	
(4) その他の特殊毒性	

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分	製 剤：処方箋医薬品 (注意－医師等の処方箋により使用すること) 有効成分：該当しない						
2. 有効期間又は使用期限	使用期限：ラベル及び外箱に表示 (3 年)						
3. 貯法・保存条件	室温保存						
4. 薬剤取扱い上の注意点 (1) 薬局での取り扱いについて	【取扱い上の注意】 1. 内容液に混濁など異常が認められた場合は使用しないこと。 2. 注射針はゴム栓の○印にまっすぐ刺すこと。斜めに刺すと、ゴム片(コア)が内容液中に混入したり、プラスチックの首部を傷つけて液漏れを起こすことがある。 3. 容器の目盛は目安として使用すること。 4. 通気針は不要である。 5. 連結管による混合投与の場合は、Y字型連結にして使用すること。 6. ゴム栓部のカバーシールが万一はがれている場合は使用しないこと。						
(2) 薬剤交付時の注意(患者等に留意すべき必須事項等)	現段階で特になし						
5. 承認条件等	該当しない						
6. 包装	500mL×20 瓶(プラスチック製ボトル入)						
7. 容器の材質	<table border="1"> <tr> <td>容 器</td><td>ポリプロピレン (PP)</td></tr> <tr> <td>ゴム栓</td><td>イソプレンゴム</td></tr> <tr> <td>シール</td><td>ポリエチレンテレフタレート (PET)</td></tr> </table>	容 器	ポリプロピレン (PP)	ゴム栓	イソプレンゴム	シール	ポリエチレンテレフタレート (PET)
容 器	ポリプロピレン (PP)						
ゴム栓	イソプレンゴム						
シール	ポリエチレンテレフタレート (PET)						
8. 同一成分・同効薬	同一成分：ヴィーン 3G 注(興和創薬) 同 効 薬：ブドウ糖加アセテート維持液						
9. 国際誕生年月日	不明						
10. 製造販売承認年月日及び承認番号	<table border="1"> <tr> <td>製造販売承認年月日</td><td>承認番号</td></tr> <tr> <td>2006 年 2 月 20 日</td><td>21800AMZ10060</td></tr> </table>	製造販売承認年月日	承認番号	2006 年 2 月 20 日	21800AMZ10060		
製造販売承認年月日	承認番号						
2006 年 2 月 20 日	21800AMZ10060						
11. 薬価基準収載年月日	2006 年 7 月 7 日						
12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	該当しない						
13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	該当しない						

14. 再審査期間	該当しない		
15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	該当しない		
16. 各種コード	アセトキープ 3G 注		
	HOT (9桁) 番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト 電算コード
	117537002	3319562A2037	620004100
17. 保険給付上の注意	本剤は保険診療上の後発医薬品である。		

X I . 文 献

1. 引用文献	1) 第十六改正日本薬局方 解説書 2) 共和クリティケア社内資料：安定性試験（2009）
2. その他の参考文献	特になし

X II . 参 考 資 料

1. 主な外国での発売状況	該当しない
2. 海外における臨床支援情報	該当しない

X III . 備 考

その他の関連資料	特になし
----------	------

【MEMO】

【MEMO】

ニフ。ロ 株式会社
大阪市北区本庄西3丁目9番3号

1504PI-4D